

高品質小麦「チクゴイズミ」の好適栽培条件							
〔要約〕 小麦「チクゴイズミ」は「農林61号」に比較して、<u>収量</u>、<u>検査等級</u>が高位に安定しており、圃場の肥沃度や施肥法による変動は小さく、<u>栽培適地</u>が広い。<u>製麺適性</u>は高く、変動も小さい。							
農産研究所・栽培部・作物栽培研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	水田作	専門	栽培	対象	麦類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

北部九州汎用化水田の輪作体系の中で、小麦の高品質・安定栽培法の確立が求められている。そのため、多様な輪作体系に適し、現在の奨励品種の欠点を改良した高品質な小麦品種の導入を図るとともに、その品種の特性が発揮できる好適な栽培条件を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ①「チクゴイズミ」は圃場の肥沃度が中庸な条件下の標準栽培で「農林61号」に比較して、穂数が16%程度多く、千粒重が13%程度重く、収量は28%程度多収で、検査等級が勝る（表1）。
- ②「チクゴイズミ」の栽培条件として、圃場の肥沃度が高い場合は肥沃度中庸の場合に比較して施肥量が同じ場合に収量が高く、検査等級が優れる。肥沃度が高い圃場で施肥量（Nkg/10a）を基肥で2kg、第1回追肥で1kg程度減じた場合には、倒伏程度がやや少なく、千粒重が増加し、検査等級がやや向上する（図1、表1）。
- ③「チクゴイズミ」の製粉分析結果及び茹麺製品評価は良好で、圃場の肥沃度や施肥法による変動は小さい（表2）。
- ④「チクゴイズミ」は収量、外観品質、製粉適性及び茹麺製品評価からみて圃場条件は肥沃度中庸～高と好適栽培条件が広い。また、枯熟れ耐性が強いことから牧草など多様な輪作体系の中で高品質、安定栽培ができる。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①麦栽培技術指針及びチクゴイズミの栽培指針に登載する。
- ②多肥により増収効果がみられるが、倒伏の発生や検査等級の低下が懸念されるため、多肥栽培は避ける。

[具体的データ]

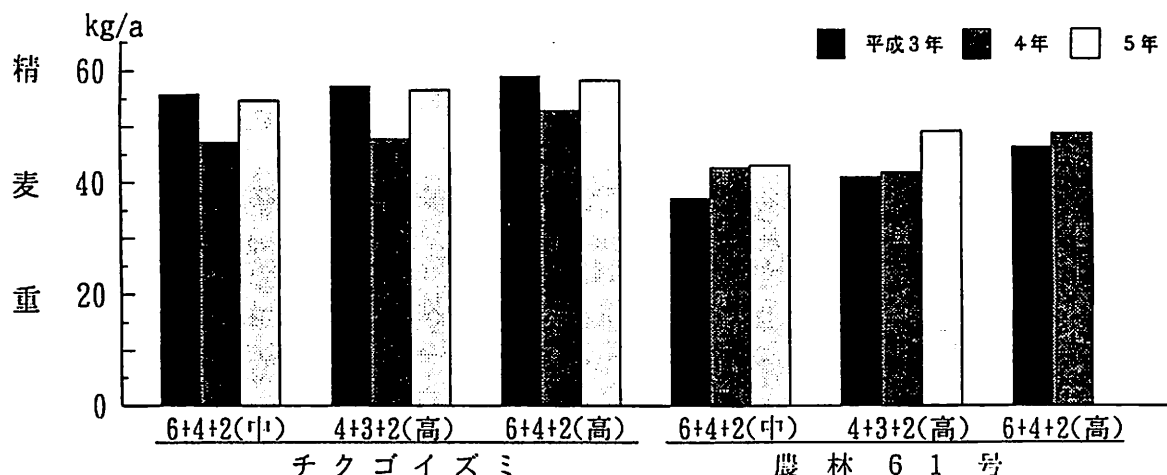


図1 圃場の肥沃度と施肥法による収量の年次変動

注) 施肥法は基肥+分けつ肥+穂肥、()は圃場の肥沃度を示す。

表1 生育、収量及び検査等級

品種・系統名	圃場の肥沃度	施肥量 Nkg/10a	稈長 cm	穂数 本/m ²	倒伏 程度	出穂 期 月日	成熟 期 月日	千粒 重 g	精麦 重 kg/a	検査 等級
チクゴイズミ	中	6+4+2	83	443	0	4.14	6.5	40.4	52.6	3.2
"	高	4+3+2	85	486	0	.14	.6	41.2	54.0	2.5
"	"	6+4+2	86	494	0.1	.14	.6	40.5	56.7	2.7
農林61号	中	6+4+2	88	382	0.5	4.19	6.8	35.8	41.1	4.2
"	高	4+3+2	89	431	0.6	.19	.9	39.1	44.2	2.8

注) ①平成3～5年の平均値。②播種期は11月21～24日。

③施肥量は基肥+分けつ肥+穂肥、検査等級は1等上～2等下を1～6で示す。

④倒伏は無～甚を0～5で示す。

表2 製粉、製麺適性

品種・系統名	圃場の肥沃度	施肥 Nkg/10a	原麦 灰分 粗蛋白	テストミル60%粉 灰分 粗蛋白	7ミル最高粘度 BU	茹麺製品評価 粘弾性 なめらかさ	合計	増重率
チクゴイズミ	中	6+4+2	1.52 9.3	0.40 7.6	930	17.0 6.8	67.5	254
"	高	4+3+2	1.59 9.3	0.39 7.6	875	16.5 6.8	65.5	254
"	"	6+4+2	1.58 9.4	0.38 7.5	890	16.8 6.8	66.5	251

注) ①平成3、4年の平均値。②分析は全て九州製粉懇話会に依頼。

[その他]

研究課題名：A S W並の優良品種・系統の好適栽培条件の解明

予算区分：国庫（水田農業）

研究期間：平成5年度（平成3～5年）

研究担当者：田中浩平、原田皓二、大隈光善

発表論文等：平成3～5年度 秋冬作試験成績概要書